

Sharing Nature News Letter

ネイチャーゲームの森

vol.72
15 December 2010

本誌はネイチャーゲームの奥底にある“Sharing Nature”（シェアリング・ネイチャー）をテーマに
自然と人のつながりやつき合い方を見つめる情報誌です。



スポーツ振興くじ助成事業

特集「食卓」と「農園」を結ぶ ネイチャーゲーム

ネイチャーゲームの森 72号

ネイチャーゲームは米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された活動です。
みる・きく・さわる・かぐなど、私たちひとり一人が持っている感覚を使って、楽しみながら自然を体験する活動です。

シェアリングネイチャーを深めよう..... 5
くらし時間のネイチャーゲーム〈自然へのインタビュー〉..... 6
達人から学ぶ「『本物』をめざす」..... 7

盛口 満の生きもののおもしろ博物誌「食物連鎖」..... 7
気になる木「紅葉の仕組み」..... 8

Sharing Nature Column

・ 森の手紙 ・

vol. 11



冬、まだ朝日が残る森に出掛けたことはあるだろうか。

そこで見られるだろう

儂く消えてしまふ、咲いた霜の花を。

声を潜め、耳を澄まし、そっと森へ分け入ってみよう

きつと見られるだろう。

霜の花が雪に変わる、その瞬間を

—— ネイチャージャーゲーム（サイレントウォーク）
言葉を使わずに静かに自然を見つめ、
自然を敏感に感じとり
自然とのつながりを実感します

写真・林 昌尚
文・高畑吉男



Special feature-11

田畑には生きものがいっぱい！

「食卓」と「農園」を結ぶ ネイチヤーゲーム

取材・文／伊東久枝
取材協力／相原農場 相原成行
中部よこはまネイチヤーゲームの会
写真／日本協会
構成／編集部

「命をいただく」
……という実感が
希薄になっていませんか？

農業人口の減少、高齢化、後継者不足、それ
にともなう耕作放棄地の増加など、現在農作物
の生産現場は、多くの問題を抱えています。

一方消費者側は、「食の安全」に対する意識は
高まっているものの、生産現場に足を運ぶ機会
はほとんどなく、流通にのって店頭で並ぶ農作
物を「商品」として手に取るばかりで、「食」本
来が持つ「命をいただく」という実感が希薄に
なっています。

そのような現状を踏まえ、日本協会では、私
たちの「命と健康を支える農業」への関心や理
解を深めるため、『農業生産者と消費者をつなぐ
体験プログラム』の開発と実践を開始しました。



相原成行さん プロフィール
1967年生まれ。宇都宮大学農学部卒。
父親が有機農業に切り替えると同時には
じめた援農で、「消費者とのつながり
がある農業」が育つのを目の当たりにする。
人と人がつながる活気のある農業に魅
れを感じ、家業を継ぐ意志をかためる。
日本有機農業研究会理事。神奈川有機農
業研究会会長。

田んぼはお米だけじゃなくて 「生きもの」もつくるんだ!

遠く丹沢山系を眺める、神奈川県藤沢市宮原。この日『農業生産者と消費者をつなぐ体験プログラム』開発事業の一環として実施された『田んぼでみつめる いのちのつながり』のイベント会場となったのは、2世代にわたり有機農業で農業を営む相原農場です。周辺の景色は、住宅と農地がせめぎ合う、都市部周辺で見かけるごく一般的な風景。過疎化が進む山間部でもなく、広大な農地が広がる自然豊かな農村地帯でもなく…。

その住宅が背後に迫る畑の一角で、子どもたちが歓声をあげながら行ったり来たり。手にはアマガエル、カマキリ、バッタ、テントウムシ…。プログラム開始の合図も聞き入れてもらえないほどに、生きものの捕獲に夢中です。そして本日のメインイベント「稲刈り」が始ってから、「あつ、ザリガニだ」「カタツムリがいたあ」と、またまた生きものの観察が始まり、作業がなかなか進みません。

相原農場は、現農場主・相原成行さんのお父さんが1980年に有機農業に切り替えてからすでに40年。田んぼや畑の生態系がしっかりとできています。「田んぼはお米しかつけれないと思っていただけで、本当は生きものまでつくるということがわかりました」(正道かずき君・小2)。「田んぼにいるアマガエルを久しぶりに見ました。無農薬の証拠ですね。本当にこういうやり方で農業をしている人がいるのを知り、感動しました」(桜井美子さん・家族4人で参加したお母さん)と、参加者の感想からも多様な生物を育む田畑への理解と驚きが伝わってきます。



相原さんから、刈った稲の束ね方を聞く参加者たち。ひもでしっかり縛らないと、干したときに稲がバラバラ落ちてしまうので要注意!

体験を心に落とすネイチャーゲーム

この日、稲刈りや餅つきの農業体験と合わせて実施したネイチャーゲームは、生きものの関係を考える(ネイチャーグループ)。参加者それぞれが手にした「生きものカード」を見ながら、つながりのあるカードを持った人と手をつないでいきます。この日のカードには、カエル、ダンゴムシ、バッタ、人間など(ネイチャーグループ)の通常カードに加え、モズ、テントウムシ、トカゲなど、相原農場の田畑にいる生きもののカードが加えられていました。

最後にどのようなつながりがあるかを発表しあうと、そこには田んぼの周辺でたくさん見つけれられたカエルやバッタが、多くの捕食者に狙われていることが分かり、田んぼの生態系が浮かび上がって見えました。振り返りでは、参加した子どもたちのなかから「つながり」「関係」などの言葉に加えて「田んぼの力」という言葉も出て、子どもたちの感性の豊かさにスタッフ一同びっくり。企画の狙いはしっかりと伝わったようです。

農業体験を指導していただいた相原さんも「みんなつながっているんだよ」ということをずっと伝えたいと思っていたのですが、稲刈り体験だけでは終わってからの話してもなかなか伝わらなくて歯がゆかったんです。これほど見事に伝える手段があるのですね」と、プログラムに大満足。

イベントを企画した中部よこはまネイチャーゲームの会スタッフも、イベント終了後には「ゲームのなかの生きものと、実際の生きものがマッチングしていくのが目の当たりに見られた」「ネイチャーゲームは室内でもできますが、今日はネイチャーゲームがゲームじゃなくなっていた気がします。ネイチャーゲームの醍醐味を感じました」と少し興奮気味です。

生きものがあふれる体験フィールドとして、農業を使用していない田んぼは「最高の場所」でした。

家の近くの農家と結びついて いっしょに農業を育てていこう!

秋の収穫期、天気がよければ農作業に集中したいところを体験イベントに時間を割くのは、農家にとっては負担が大きく、イベントを受け入れるのは実は大変なことです。しかしなかには相原さんのように「都市型の生活を送る人にとっても、農業は自分の生活と別のところにあるものではなく、隣り合わせにあるものだと思うんです。消費者に農業体験を提供していくことは、農地を持っている人間の役割だと思っています」と考える農家の方もいます。

「田んぼや畑は食料を生産するだけの場ではないはずです。人を育てられる場所だと、私は思います。い



カードに描かれた生きものと関係のあるカードを持った人と手をつないでいく。カエル、バッタ、ミミズは、食べたい生きものがたくさんいて大人気(?)。

つしよに何かをすることでもともに育っていきけるんじゃないか」と。

稲刈り前の相原農場の田んぼは、ところどころに稲穂よりも背の高いキビが目につきます。夏に草取りが間に合わなかった田んぼは、キビの勢いが強く、相原さんはちよつと苦笑い。でもこれが除草剤を撒いていない証拠です。稲刈りは、束ねた稲からキビを抜きながらの作業で、少々手間がかかります。でも…。

「草を抑えたい、というのは人間の都合。すべてのものは命をつないでいきたいと一生懸命なんだよ。水があるから草が生える。植物も動物もたくさんいる。実はこれが普通なんだ」

「農業」は害虫を殺す薬だと思っている人が多いけれど、農業は人間にとって都合の悪い生きものだけではなく、他の生きものにも影響を与えてしまうんだよね」

相原さんの田んぼを見ながら聞くその言葉は重く、「有機無農薬」という農業を選択した農家の方のための思いの強さに改めて触れたような気がしました。農業を使わないということ。それは、草も虫も手

やってみよう！ 田んぼでネイチャーゲーム

〈ネイチャーループ〉



第一段階
熱意をよびおこす活動



参加者それぞれが1枚ずつ、生きものや植物など自然の要素が描かれた「カード」を持ちます。



自分のカードに描かれたものとながりのあるカードを持った人を見つけて、ふたりで手をつなぎます。



③

さらにつながりのある人を見つけて、どんどんつながっていきます。

④

全員が手をつないだら、端から隣の人との関係話していきます。

ポイント

カエル、アリ、ダンゴムシ、バッタ、カラスなどの通常カードに加えて、モズ、ツバメ、 TENTUUMシ、クモなど、実施する田畑で見られる生きものを加えておくのが効果的。下見をし、農家の方と相談してカードの種類を決めましょう。

でとり、常に生育状態に監視の目を光らせて病気の原因をとりのぞいていくという、大変な労力を農家の方に負わせていることだと消費者はもう少し知るべきなのではないのか。そしてちよつとしたアクシデントで虫が大発生したときにも、いかなる殺虫剤も使わないことで農作物がダメになっていくリスクを農家だけに負わせていいのか。

今回のイベントは、自然の豊かさとおいしい食に触れた喜びとともに、「食」に対する自分の姿勢を問われ、多くのことを考えさせられたプログラムでもありました。

「食べものは自分の目で見て、選んで欲しい。外国のものより、日本で生産されたものを。そしてできれば、国産のものでも環境に負荷のないものを。きっと日本中に日本人の食を考えて、一生懸命農業をし

ている人たちがいるはず。自分が住んでいる近くの農家と結びついて、その人たちを応援し、地域の農業をいっしょに育てていってほしいですね」

それが参加者への相原さんからのメッセージです。最後にこの日稲刈りが終わった田んぼを見ると「一人でやると大変なことも、みんなでやると楽しいなあ」といった相原さんの声が、再び聞こえてきたような気がしました。

日本協会では2010年度日本財団の助成を受け、『農業における生産者と消費者をつなぐ体験プログラム』の開発を行い、現在相原農場の他全国29か所で行うプログラムを実施しています。この活動の結果を振り返り、今後もこの取り組みを続けていきますので、ぜひ近隣で協力いただける農家を見つけ、各地で活動を広げていってほしいと思います。

Joseph Cornell's Message from Ananda



セクリューション・リトリートの森。ツアーでは〈美の小径〉や〈サンセットウォッチ〉を楽しめます。

Ananda Village アナンド村

『Sharing Nature with Children (邦題：ネイチャーゲーム1)』他の著者であり、(社)日本ネイチャーゲーム協会名誉会長であるジョセフ・コーネル氏が暮らす、北カリフォルニアのスピリチュアル・コミュニティ。米国にヨガを広めたパラマハンサ・ヨガナンダの教えに基づき「シンプルに暮らしと高度な思考」を求め、1968年にスワミ・クリヤナンダによって創設された。アナンドとは「内面的な喜び」を意味する。現在、森と草原を有する800エーカー（約320ヘクタール）の敷地に、85世帯230人が暮らし、幼稚園から大学までの学校、有機農場、商店などがある。

シェアリングネイチャーを深めよう

ジョセフ・コーネルが暮らす アナンド村の魅力

vol.4

J.コーネルに 大きな影響を 与え続ける コミュニティ

お話し 三好直子
取材・文 伊東久枝

ジョセフ・コーネル 連載休止のお知らせ

前号で、コーネル氏によるアナンド村の生活を紹介する記事の掲載を予告いたしました。コーネル氏の体調不良により今号は連載をお休みさせていただきます。代わりに日本協会理事の三好直子氏にアナンド村の思い出と魅力をご紹介します。

わえる場所でした。

アナンド村に行くといつも、頭のなかに「JOY」という言葉が浮かびます。この言葉が身体から湧き上がってくるような気がします。私は「シェアリングネイチャー」の6原則」のなかで「深い喜びの感覚を体験しよう」という原則がいちばん好きなのですが、その原点にアナンド村で触れたような気がします。とくに「セクリューション・リトリート」の暮らしのなかで、「自然のなかでの喜びに満ちた経験が大事」「日々の身近なところにも見方次第でその感覚は得られる」ということを学んだように思います。

今、アナンド村を訪れると外部からの来訪者は中心地区の新しいリトリート（日常生活から離れ、自然のなかで静かに自分を見つめなおす施設）に宿泊をします。中心地区ももちろん素敵ですが、もしアナンド村に行かれることがありましたら、サンセットスポットとしてもお勧めの「セクリューション・リトリート」に、ぜひ足を運んでみてください。

アナンド村HP
www.anandavillage.org

アナンド村の様々な側面を映し出した美しいスライドショーを見ることができます。

<http://www.anandavillage.org/pictorial-tour/index.asp>

Naoko Miyoshi
三好直子

社団法人日本ネイチャーゲーム協会理事。
1991年より10年間に渡り、アナンド村ツアーのコーディネーターを務め、毎年現地を訪ねていた。現在は理事やトレーナーとして、協会本部の運営や指導者養成講座、研修会などを担当している。

くらし時間の ネイチャーゲーム

自然への インタビュー



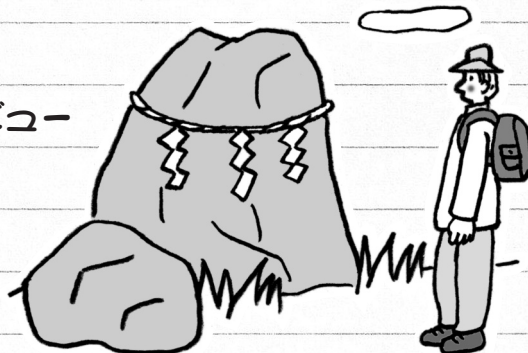
【自然へのインタビューの楽しみ方】

- ①心にとまる自然物をひとつ選び、その自然に聞いてみたい質問をします。
- ②自然からの答えを自分なりに考えてみます。

木や石、生きものなど、自然に対してインタビューをするネイチャーゲーム。人間以外の視点を持つことで、自然に対する理解と共感を育む活動です。

石へのインタビュー

旅先で出会った大きな石。どっしりと存在感があったのでインタビューをしてみた。

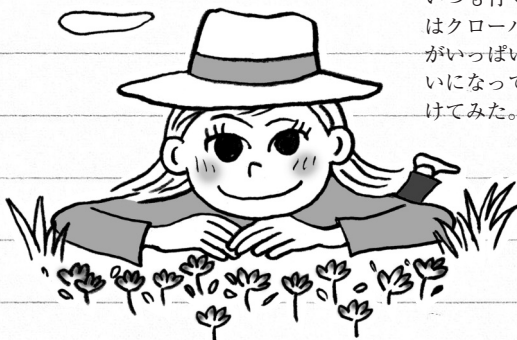


自然への インタビュー

- あなたは何か？
- いつからここに居るの？
- どこから来たの？
- この場所をどう思う？
- 困っていることは？

生きものへのインタビュー

植物へのインタビュー



いつも行く公園にはクローバーの花がいっぱい。腹ばいになって話しかけてみた。



朝の散歩の途中にきれいな鳥をみつけた。おはよう！と挨拶をした後インタビューをしてみた。

私は植物や昆虫、そのほかの生きものとの対話を楽しみます。言い換えると、「生きものの気持ちになってみる」ということなのですが、これはネイチャーゲームの＜自然へのインタビュー＞に通じるのかな、と思いました。

私の家の近くで、樹齢260年とも言われるスダジイの大木が、道路建設に伴い伐採される予定でしたが、人びとに惜しまれて別の場所に移植されることになりました。

260年前に、一粒のドングリから双葉を出した時、行き交う人びとはどんな暮らしをしていたのだろうか。木は自分の枝の下で、休んだり、実を拾ったり、食べたりする人びとや動物たちをどんな気持ちで眺め

ていたのだろうか。

そして今、大木となって場所を移されることが、この木にとって果たして本当の望みのだろうか。それは、人間のエゴではないのか？ しかし…などなど、私はこの木の前を通る時につらつらと思い、さらに、「共生ってなんだろう？」などと、ぼんやり考えたりもするのです。

「生きものの気持ちになってみる」と、思いがけない発見や視点が開けてきて、楽しいものです。「彼らは、なんでここにいるのだろうか？」という問いかけが、＜自然へのインタビュー＞の出发点になります。

ある初夏の日、公園の茶畑の葉陰でアシナガバチの巣を見つけました。まだ直径

1.5cmくらいで、その巣をつくった蜂が1匹、巣に止まっています。

「どうしてここに巣をつくったのかな？」
「そうか、エサが多いから？」
「遠くまでエサを探しに行く手間が省けて、そのぶん子どもをたくさん育てられる？」
「なんでエサが多いってわかるのかな？」
「お茶の木にはチャドクガなどがつくよね？」
「人間はチャドクガにかぶれるけど、君は大丈夫だろうか？」
「葉が傘になって雨もよけられそうだから、ここを選んだのかな？」などと思い浮かびます。ああ、きりが無い。

楽しい対話はこうして続きます。

(早川広美／神奈川県)

達人

から学ぶ

【その十一】

ネイチャーゲームトレーナー
清水建司さんの巻



しみず けんじ

東京大学の海洋研究所で研究を行ないながら環境教育の実践にも取り組み、海や生きものの不思議に魅せられている。公認ネイチャーゲームトレーナー、指導者養成委員
1960年大阪生まれ。

募集中

このコーナーでは、全国の「達人」情報やリクエストを募集しています。ある分野でのネイチャーゲームの達人、熟練指導員の達人技、あの人の技を聞いてみたい...どしどし応募ください。
mizushina@naturegame.or.jp

『本物』をめざす

●「本物」の言葉がもつ力

魅力ある話というのは、話し手の体験に根ざしているものだと思います。それがどんなにおもしろく、どこが美しく、どんなに不思議か...、体験からにじみ出た「本物」の言葉で語られる時、人の心に届く力がそのなかに宿るのだと思います。

私はネイチャーゲームを通じて人と触れるとき、相手の心に届く「本物」に根ざした言葉で語りかけられるようにになりたい、と思っています。今回は、そのために私が大切にしていることを紹介したいと思います。

●自らがよい体験をすること

みなさんは、心を揺さぶられるような体験をどのくらいしていますか。よい体験が「本物」感覚の基礎をつくるのだと思います。

秋の雑木林のなかで、大きなコナラの木の根元にもたれかかって、1人で青い空を見ていた時、急にハラハラと葉が舞い落ち始めたのです。最初は数枚が舞い散り、やがてそれが大乱舞になっていきました。あつという間に、木が丸裸になってしまったのではないかと、木が丸裸になってしまおうのではないかと思ふくらい、激しく降りしきる落ち葉を見つめていると、この瞬間の「美」、この空間の「動」、土・木・生物のつながりのなかにある「生」など、いろいろなことが頭のなかをグルグル駆けめぐって思わず涙が頬を伝っていました。自然のなかに身を置いて、心を空っぽにして受け身の状態にすること。そんな時

優れたネイチャーゲームリーダーになるためには、よい体験を重ね得意分野をもち「本物」感覚を身につけることが大切だ、と清水さんは説いています。

間と機会をできるだけもつことが大切だと思います。

●得意な分野をもつこと

みなさんは得意分野をおもちですか。興味をもてるものに没頭することは楽しいものです。なにかに興味をもつことで、未来の「本物」体験が膨らんでいくことでしょう。

私は、小さい時から生きものが大好きで、これまで数え切れない種類の動物や植物の生と死に接しました。青森の浅虫で、ホヤの受精卵の変化を見る機会がありました。たった一つの細胞がどんどん分裂して、細かい細胞の固まりになり、さらにそれがうごめきながら小さな命になっていく...。誰かが手を下さなくても、自らそうなっていくのです。私自身を含め、地球上のありとあらゆる生命がこうして生まれてきているのか、と思うと本当に不思議です。もつともつと、いろいろな生きものの不思議に出会いたいと思います。そのように興味をもつことで、自分の得意な分野ができあがっていくと思います。

よい体験をすること、あるいは興味ある分野をもつことは、「本物」を理解する基礎を固めるとともに、「本物」感覚を広げていくことにつながるものではないでしょうか。これはネイチャーゲームリーダーとして大きな糧となるものです。みなさんも、常にこの2つを意識してみてはいかがでしょうか。

生きもののおもしろ博物館

食物連鎖

No.15

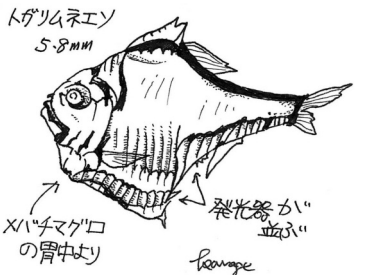
大学の授業。学生たちと一緒に魚市場に出かける。各グループに千円札を手渡し、好きな魚を選んでもらう。ただし「丸ごと購入せよ」というのが条件だ。しばらくして、様々な魚の包みを手にした学生が集合した。

実験室に戻って、購入した魚を並べてみる。ハリセンボン、レンコダイ、イソフエダイ、タカサゴ等々。名前は何か？ 進化しているのはどれ？ まずは外見からわかることを観察してみる。つづいて解剖、いや、調理。魚をさばいて料理をするのだけれど、魚をおろすなんて、生まれて初めてという学生が多いから大変だ。血と脂とウロコでギタギタになりつつ、不思議に「気持ち悪い」という声は上がらない。

ついでに秘蔵の品を取り出した。小笠原で漁師をしている教え子が送ってくれたメバチマグロの胃袋だ。大きな胃袋を切り裂いてびっくり。中から見たことのない形のイカや魚が出てくる。銀色に光るトガリムネエソもいる。深海魚だ。メバチマグロは、深い海でエサをとる魚なのだ。

「食物連鎖」

のぞき込んでいた学生から声がもれる。そう、例えば夕飯の刺し身だって、何かの命からつくられたものだ。それが目の前の胃袋の中身から伝わってくる。



もりぐちみつる

沖縄在住のフリーライター。フリースクール講師や大学准教授の顔をもつ。著・編書『田んぼの恵み 八重山のくらし』（ポーターインク/2010）『ガッチョ先生の野菜探検記』（木魂社/2009）。全国研究大会in沖縄（5/28〜30）講師を務め、ファン急増中。

イベント REPORT

ネイチャーゲーム自然教室 『夏の森で100体験!!』

2010. 8/21・23 (長野県)

大田原靖子 (宮崎県)

息子は小学2年生にして3回目の参加となりました。緊張した顔は初めての参加の時だけ。参加するたび、どんどんたくましくなっている気がします。そんな息子に、「戸隠で何がよかった?」と聞くと、ちよつと考え、「宝物探し! 森をね、歩きながら、いろんなもの見つけたよ!」きれいな石とかね、セミのぬけがらとか!。そして、しばらく考え「あ、バナナマン鬼ごっこも!」それから、お山に登って:あ、ザトウムシの真似もした! ムササビも見たい、あ、忍者修行と手裏剣投げて、それからね、出てくる、出てくる!! 話は止まらなくなりました(笑)。

息子は小学2年生にして3回目の参加となりました。緊張した顔は初めての参加の時だけ。参加するたび、どんどんたくましくなっている気がします。そんな息子に、「戸隠で何がよかった?」と聞くと、ちよつと考え、「宝物探し! 森をね、歩きながら、いろんなもの見つけたよ!」きれいな石とかね、セミのぬけがらとか!。そして、しばらく考え「あ、バナナマン鬼ごっこも!」それから、お山に登って:あ、ザトウムシの真似もした! ムササビも見たい、あ、忍者修行と手裏剣投げて、それからね、出てくる、出てくる!! 話は止まらなくなりました(笑)。



戸隠の森でたくさん発見したよ!

フの魔法のおかげです。そんな息子の姿を見るたびに、遠いけれど参加させてよかった、とつくづく思うのでした。

ネイチャーゲームで癒しを体験

2010. 10/7 (東京都)

金子久美 (千葉県)

ネイチャーゲーム体験による健康効果を調査する測定員として同行し、ネイチャーゲームにも参加させていただきました。初参加でした。当日は、気持ちのよい



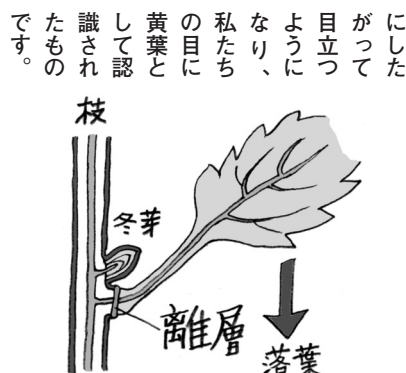
のんびり、ゆったり自然を楽しみました

最終目標やかに見守り続けてくださった先生とスタッフの方々から伝わる、のんびりとした時間の流れを感じ、そのなかで私はただ感じるだけの感覚に浸ることができました。貴重な体験をありがとうございました。

秋晴れで、私たちは新宿御苑の芝生で輪になって座り、三好直子インストラクターに導かれゲームがはじまりました。「まず耳を澄ましてみましょう」との三好先生の言葉にあわせ、私たちは目を閉じて耳を澄ませてみました。次は色。12種類の色がプリントしてある紙をいただき、そこにある色と同じものを探すぐゲームをしました。私は躍起になって探し、やっと紙の色と一致する山吹色の葉っぱを見つけ、走って先生に見せに行きました。私はすっかり童心に返っていました。その後、白紙でつくった大小のフレームを樹木や葉、花の前に置いて、ふだんは目に留まらないような小さな自然にスポットライトを当てるゲームをしました。そしてみんなで眺めて楽しむ。そこには点数をつけたり評価したりすることなく、「ただそのまますべてを楽しむ」という感じでした。裸足になって歩く体験。最後は目隠しをして歩いてみる体験。途中で木の幹や草を触り、でこぼこ斜めの道を進み、結構な距離を歩きました。



紅葉の仕組みについて教えてください。



紅葉にはカエデのように赤くなる紅葉とイチヨウのように黄色くなる黄葉とがあります。落葉樹は寒い冬の間は生産活動(光合成)を休むため、秋にその準備を始めます。

具体的には葉の付け根と木の枝の境に「離層」と呼ばれる層を作って葉を落としてしまうのですが、その過程で幹と葉を結んで水分と栄養分のやりとりをしていた管が遮断されるので、光合成によって作られた有機物が幹に移動できずに葉の中に溜まることとなります。この時、アントシアンという色素が含まれていると、有機物が分解されて糖分に変わる間に太陽光に反応して葉が赤く染まるのです。一方、黄葉はもともと葉に少量含まれていたカロチノイドという黄色の色素が、緑の色素(クロロフィル)のほうが多く分解されるにした

なぜ?
なに?
どうして?

気になる木



森林インストラクター
東京会副会長
小菅智彦さん

◆ 新公益法人への移行に関する報告

平成18年6月に公益法人制度改革に関する法律が制定され、平成20年12月に施行されました。これに伴い、全ての現行公益法人は、一般社団法人・一般財団法人に移行するか、新たな公益社団法人・公益財団法人に移行するかを選択する必要が出てきました。移行期間は5年間（平成25年11月30日まで）設けられており、この期間中に移行しなかった法人は解散したものとみなされます。

当協会は、平成20年2月に開催された第21回通常総会において、国連の持続可能な開発のための教育の10年をはじめとする国際的な宣言や条約、および教育基本法や環境教育推進法などの国内における指針や法律の趣旨に照らしても十分に高い公益性を有していることから、「公益社団法人」への移行を目指すことが決議されました。

公益社団法人となるためには公益認定委員会に申請を行い、認定を受ける必要があります。公益社団法人には従来の社団法人以上の税制優遇措置が適用されることからより高い公益性が求められます。そのため新法人への移行にあたっては、公益社団法人として認定を受けられるよう、名称、目的、事業、会員、地方組織などのあり方について、それぞれ抜本的な見直しが必要になります。

そこで、日本協会では、新公益法人への移行に向けた事務局案について、会員の皆様のご意見をいただきながら、共有、擦り合わせを行う説明会を、全国7ブロックに分けてすすめており、すでに、4ブロックでの説明会が実施されました。

そこで話し合われたご意見やご質問に関しては、日本協会ホームページにて閲覧できるようになっておりますので、ぜひご覧いただき、ご質問等ありましたら、watanabe@naturegame.or.jpまでお願いいたします。

日本協会理事会ご報告

平成22年度第2回理事会が9月13日に開催され、以下の内容が承認されました。

- ・新常務理事就任 西澤信雄理事
- ・役員報酬規定の改訂 報酬額の下限を廃止。
- ・新役員（服部理事長、西澤常務理事）の報酬額を決定
- ・関連会社との取引の整理

第21回全国ネイチャーゲーム研究大会IN愛知

シェアリングネイチャー
～伝えよう豊かな暮らしぶり～
おいでん！三河の里山へ

日本でのネイチャーゲーム普及25周年を記念し、創始者であるジョセフ・コーネル氏を招いて愛知県にて開催されます。コーネル氏による基調講演やワークショップをはじめ、森林、フットパス、クラフト、写真など実行委員会が企画する魅力あるプログラムを体験。ネイチャーゲームの仲間と遊び、語り、充実した3日間をお過ごし下さい。詳細はホームページをご覧ください。



日程：2011年6月17日(金)～19日 2泊3日
場所：愛知県野外教育センター（岡崎市）



実践事例・研究報告募集

ネイチャーゲームの可能性をよりいっそう広げ、深めていくことを目指し、2010年度より分野の整理、応募方法と様式の統一等を行ないました。

- 新しい分野
 - 分野1. 地域実践
 - 分野2. 講師活動
 - 分野3. コーディネート活動
 - 分野4. 学校教育における活動
 - 分野5. 幼児教育・保育における活動

詳細はホームページにてご確認ください。過去の事例・研究はホームページにて公開中です。どなたでもご覧いただけます。

- 応募締切り：2011年3月31日
- 応募方法：専用様式にてメールにてご応募ください。
- 送付先：日本協会 事例・研究係
jirei@naturegame.or.jp

ネイチャーゲーム奨励賞募集

日本協会では毎年、ネイチャーゲームに関するすぐれた実践や研究を奨励しています。自薦、他薦は問いません。ぜひ積極的にご応募ください。

- ・指導者養成部門（個人での実践活動・研究活動）
- ・普及部門（組織での実践活動・研究活動）

- 応募締切り：2011年3月31日
- 応募方法：指導員ハンドブック理論編(第6.2版)P.155、又はホームページを参照してください。
- 送付先：日本協会 奨励賞係
shoreisho@naturegame.or.jp

専門委員会開催報告

- 指導者養成委員会
10月25日(月)
 - ・2011年度ネイチャーゲームリーダー養成講座の改正案および体験志向型商品について
 - ・インストラクター研修講座のプログラム案と講座講師の更新要件について
 - ・全国研究大会の進捗状況とコーネルさんの来日スケジュールについて

- 11月8日(月)
 - ・インストラクター養成講座およびトレーナー養成講座 合否審査

- アクティビティ開発認定委員会
10月31日(日)
 - ・第一次選考通過の8アクティビティについての二次審査（実践審査）

新ネイチャーゲームインストラクター誕生

2011年1月1日より、新たに2名のネイチャーゲームインストラクターが誕生し、合計228名となります。
新インストラクター：
上部明広（岩手県）、杉本 崇（熊本県）

日本協会年末年始休業のお知らせ

2010年12月28日(火)～2011年1月3日(月)



ネイチャーゲームを体験しよう！

- ❖体験イベントは全国各地で参加できます
- ❖公認講師を呼んで体験会や研修会が開催できます
- ❖リーダー養成講座ではより深い体験ができます

リーダー養成講座 ▶

ネイチャーゲームに関する情報はwebで
<http://www.naturegame.or.jp/>

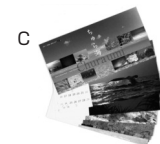


読者プレゼント

読者アンケート

本誌がさらに魅力的な情報誌になるように、読者の皆さまの声を聞かせ下さい！ アンケートに答えていただいた方の中から抽選でステキなプレゼントをさし上げます。プレゼント当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

読者プレゼント締め切り日 ▶▶▶ 1月15日



表情豊かな海

1 2011年カレンダー

- A. 月の満ち欠けカレンダー
‘海と空の出会い場所’
¥1,260 2名様
- B. 壁掛カレンダー
‘ゆかいな海のなかまたち-Smile’
¥945 2名様
- C. 卓上カレンダー
‘ちゅら海’
¥900 2名様

沖縄を拠点に活動する自然写真家ユニット「うみまーる」のカレンダー3種。沖縄の美しい渚の風景や世界の海で出会った生きものたちの笑顔を綴っています。いつもあなたに海からの風が届きますように。

※A、B、Cからお選びください。
(提供：うみまーる)

2 ゲースコール

¥2,500 1名様

ゲースはガチョウのこと。ダックコールよりも低い音で、愛らしい鳴き声を出すことができます。サイズは全長8.8cmで、ダックコールよりも約3cm小さく、手のひらサイズ。

(提供：ネイチャーゲーム研究所)



オスメの新商品！

3 携帯火起こし

スウェーデン製 1名様

元は軍が野営で使用していたものを、一般向けに商品化したもの。着火材を削るタイプなので、繰り返し使用できます。

これ一つ携帯すれば、いつでもどこでも火起こしが可能！あなたのアウトドア七つ道具に加えてみては？



超便利アイテム

表紙の写真・冬の野菜

Sharing Nature News Letter

ネイチャーゲームの森 第72号

発行日 2010年12月15日

発行人 服部道夫

発行所 社団法人日本ネイチャーゲーム協会

〒160-0004

東京都新宿区四谷4-13-17 ワークスナカノ2F

TEL 03-5363-6010

FAX 03-5363-6013

http://www.naturegame.or.jp

jimukyoku@naturegame.or.jp

編集

佐々木香織・水信亜衣

デザイン

橋本陽子(ビー・ビー・エフ)

田崎恭子(リクパ)

イラスト

安藤美紀子(P.4・6)

DTP

第一資料印刷(株)

表紙

MIXA(イメージナビ)

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断掲載を禁じます。



この情報誌はスポーツ振興くじ助成金を受けて作成しています。



●あなたのお名前

●会員ID.(または、ご住所/電話番号)

●あなたはネイチャーゲームの会員になって何年たちますか？

☐ 1年未満 ☐ 1~3年 ☐ 3~5年 ☐ 5~10年 ☐ 10年以上 (年)

●本誌『ネイチャーゲームの森』についてご評価ください。また、その理由を聞かせてください。

A. 大変参考になる B. 参考になる C. 普通 D. 参考にならない
理由 ()

●今号の中で良かったコーナーに○、普通だったコーナーに△、いまひとつだったコーナーに△をつけてください。

Sharing Nature Column () 盛口満の生きもののおもしろ博物誌 ()
特集『食卓と農園を結ぶネイチャーゲーム』..... () イベントレポート ()
シェアリングネイチャーを深めよう () 気になる木 ()
くらし時間のネイチャーゲーム () NGニュース ()
ネイチャーゲームの達人から学ぶ () 読者のひろば ()

●本誌で取り上げてほしい特集やコーナーがあればお書きください。

●プレゼント希望(ご希望に添えない場合もあります。ご了承ください)

☐ ① (A・B・C) ☐ ② ☐ ③ ☐ どれでもOK ☐ プレゼント不要



FAX 返信

03-5363-6013

メール返信

mizushina@naturegame.or.jp

プレゼントの締め切り日を過ぎても、アンケートの返信は受け付けています。

読者のひろば

このコーナーでは読者の皆さまの声ををお届けします。携帯メールからでもOK。写真付きも受け付けています。気軽に投稿してください。mizushina@naturegame.or.jp



旅立ち

From 猪崎悦子

10/11勝岡小の子どもたちと見送りました。今年も19244羽のサシバが都城市金御岳上空を渡っていきました。気をつけて行くんだよ、また帰ってくるよねー。
(宮崎県都城市)



体験カードがいっぱいになった方からのお便り

ネイチャーゲームに楽しく参加させてもらっています。普段以上に五感をするどくして色々な音を聞いたり、観察したり、触れてみたいすることが、とても楽しいです。

子どもと一緒に自然の中の一部になって遊ぶことは、とても楽しく、気持ちが解放されます。これからも、まだまだ参加します。

(げんのすけと母さん/愛媛県)

いつも楽しくゲームをさせていただき、親子での大切な時間を過ごさせていただいております。いろいろと学ぶ事が多く、毎回楽しみにしております。自然と触れ合う中で、日頃気づかなかった自然のよさなど感じさせていただいております。ネイチャーゲームに参加させていただいてありがたく思っています。

(ときちゃん/山口県)

いつもネイチャーゲームを楽しませていただいております。自然を大切に友だちのように、という文言がとても好きで心にぴたりきます。

(孝子/大阪府)

自然とふれあう楽しさを、 伝えたい。

葉っぱや木に触れたり、匂いをかいだり、風の音に耳を澄ませたり…。
四季折々の身近な自然の中で、いろんな感覚を使って自然体験。
ネイチャーゲームを通し自然と深く関わりながら、
その不思議さや面白さを伝えることがネイチャーゲームリーダーの役割です。
地域や教育の現場、身近な暮らしの中など、活躍の舞台はさまざま。
あなたも自然の案内人になってみませんか。

Wanna be a Nature Game Leader!
リーダーになる!



STEP 2

ネイチャーゲームリーダーの
資格をとる

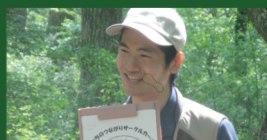
STEP 1

ネイチャーゲームリーダー
養成講座に参加する

Nature Game Leaders ▶▶▶



ネイチャーゲームリーダー
自然案内人
になりたい



自然が好き

自然をもっと楽しみたい

自然について伝えたい

自然や子どもたちのために何かしたい

ネイチャーゲームって何?

リーダー養成講座
申し込み受付中



ネイチャーゲームリーダー(指導者)って?

●リーダー

ネイチャーゲーム活動を通して、身近な子どもや大人に自然を案内します。

●コーディネーター

ネイチャーゲームの理念、ネットワークを活かした地域づくりを行います。

●インストラクター

地域での講師活動を通したネイチャーゲームの普及活動を行います。

●トレーナー

指導者養成講座・研修における講師活動を通して人材育成を行います。

ネイチャーゲーム
リーダー養成講座
開催情報

岡山県	【1泊2日 ※教育機関関係者のみ】2011年1/8(土)～1/9(日)	鹿児島県(2)	【2泊3日 ※県内在住在勤在学者のみ】2011年2/11(金祝)～2/13(日)
鹿児島県	【2泊3日 ※県内在住在勤在学者のみ】2011年1/8(土)～1/10(月祝)	千葉県	【2泊3日】2011年2/18(金)～2/20(日)
東京都	【日帰り3日】2011年2/11(金祝)～2/13(日)	滋賀県	【2泊3日】2011年3/19(土)～3/21(月祝)
福岡県	【2泊3日】2011年2/11(金祝)～2/13(日)	兵庫県	【2泊3日】2011年3/19(土)～3/21(月祝)
宮崎県	【日帰り3日】2011年2/11(金祝)～2/13(日)		

お申込み・お問合せはこちらまで

社団法人日本ネイチャーゲーム協会

TEL 03-5363-6010 FAX 03-5363-6013

jimukyoku@naturegame.or.jp

URL <http://www.naturegame.or.jp/>

〒160-0004

東京都新宿区四谷4-13-17 ワークスナカノ 2F

今年4月末に上記住所に移転しました



NATURE GAME.

地球と遊ぶ。
自然と話をしよう。